

11/11

November 11th, 2008

日本における国際協力の中心的存在である JICA の研修施設「JICA 筑波国際センター」を訪問し、グループトレーニングコースに関する説明を受け、施設見学を行いました。

Technical Tour II

JICA 筑波国際センター

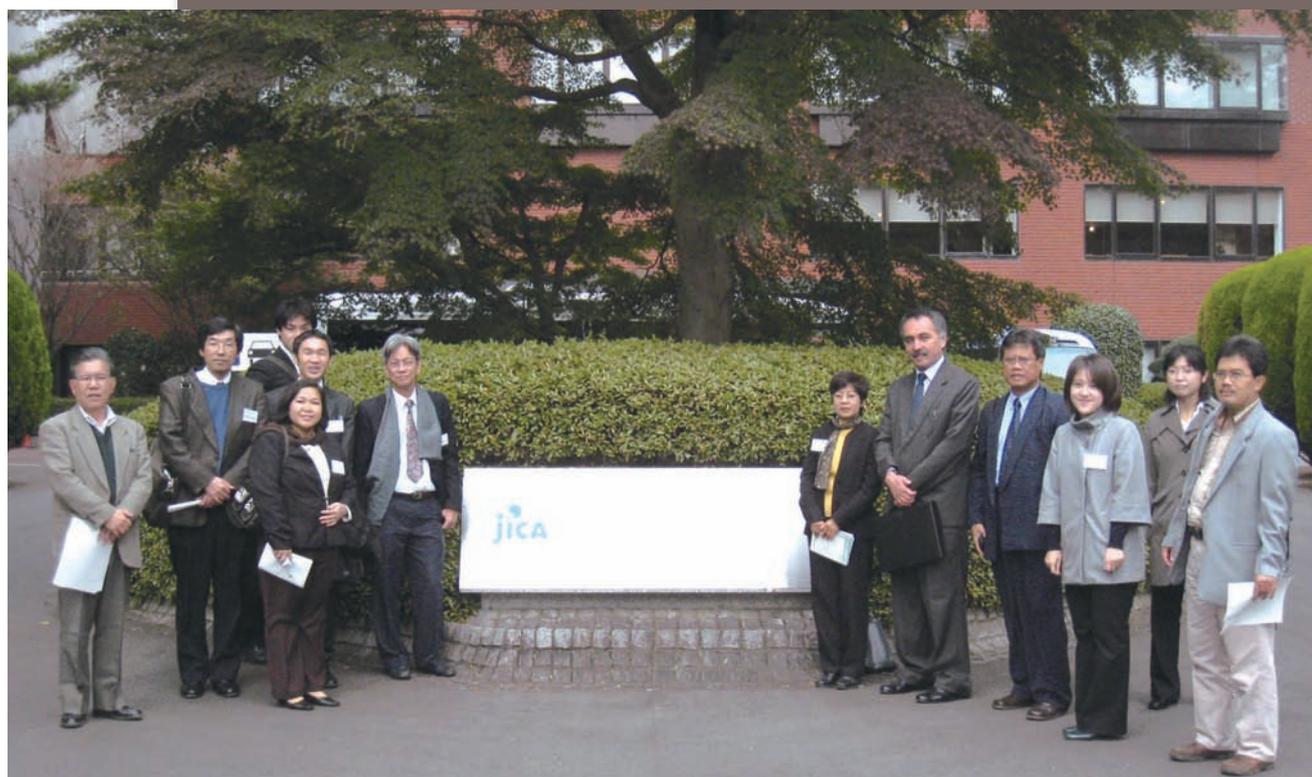


シンポジウム最終日には JICA 筑波国際センターを訪問しました。

まず JICA 全体の幅広い国際協力活動について全体的な説明を受けた後で、同センターで行われている様々な研修コースについての説明を受けました。

場内の見学では、日本の農機具の変遷が一目で分かる農機具展示室で、コメの収穫や脱穀に用いられてきた様々な機具を見学しました。

JICA 筑波国際センターでは、年間約 120 カ国から 1,000 名以上の研修員を受け入れており、これまでに累計で 16,000 名以上の研修員を受け入れてきた実績があるという説明を聞き、参加者はたいへん驚いていました。





筑波大学農林技術センター

午後は筑波大学農林技術センターで作物、園芸、畜産、農業機械班の管理する圃場や施設を視察しました。11月初旬であったことからあいにく既に収穫が終わってしまっている作物もありましたが、蔬菜温室内のトマトや葉菜類の養液栽培施設、作物畑作圃場のサツマイモの収穫作業の様子などを参加者は大変興味深く見学していました。また、作業を行う職員に対し熱心に質問を投げかけ、ときには自身の手に取って、収穫したばかりの作物を観察していました。

見学当日は、筑波山の紅葉も遠くに目にすることができ、筑波の四季の移り変わりを、自分の目で感じる事ができたようです。



Farewell Luncheon, Closing Ceremony

閉会式



8日間におよんだ、「2008年度国際農学ESDシンポジウム」が幕を閉じました。国際農学ESDの構築に関する活発な議論が展開され、筑波大学、カセサート大学、ポゴール農科大学、フィリピン大学ロスバニオス校、茨城大学は密接に連携をとりながら、アジア地域における持続的農業に関する教育・研究を推進することで一致しました。また、インターンシップの大学院生がスタッフとして会議に参加しました。職員も大学院生も全く初めての経験で何もかも手探り状態でしたが、参加者には大変好意的に受けとめて頂きました。

